



PRESS RELEASE (2013/09/03)

九州大学で昭和30年代に開発された機械翻訳実験用計算機が 国立科学博物館重要科学技術史資料として登録

概要

九州大学において機械翻訳研究のために開発した実験用コンピュータ「KT-1」が、国立科学博物館重要科学技術史資料として登録されます。言語を処理する機能を持つコンピュータ「KT-1」は、昭和30年代に、日本で初めて、日本語・英語・ドイツ語の三カ国語を自動的に翻訳する実験のために開発されました。

登録証授与式は、平成25年9月10日（火）に国立科学博物館において開催されます。

背景

国立科学博物館では、科学技術史資料のうち、「科学技術の発達上重要な成果を示し、次世代に継承していく上で重要な意義を持つもの」や「国民生活、経済、社会、文化の在り方に顕著な影響を与えたもの」を選定し、重要科学技術史資料として登録しています。今回、平成25年9月10日（火）の登録証授与式において、九州大学の機械翻訳研究のために開発された実験用コンピュータ「KT-1」が、同資料のひとつとして認定されます。

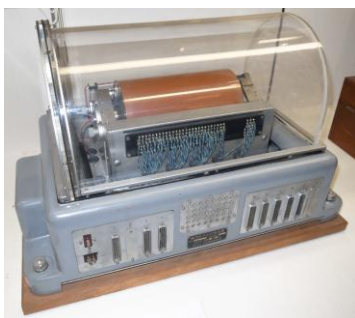
なお、この「KT-1」は、日本のコンピュータ技術が発達してきた歴史の中でも貴重な資料であるため、平成23年3月に情報処理学会の情報処理技術遺産としても認定されています。

内容

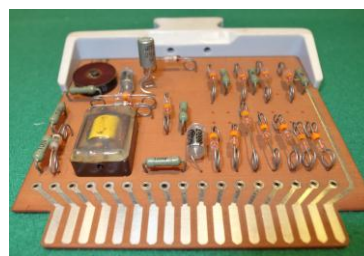
実験用コンピュータ「KT-1」は、昭和30年代に、日本で初めて、日本語・英語・ドイツ語の三カ国語を自動的に翻訳する実験のために開発された言語処理用コンピュータです。これは、自動翻訳を実現するために、それぞれの言語を構文解析アルゴリズムでいったん中間言語的な情報に変換した上で翻訳するという方式を用いたもので、当時のコンピュータとしては、文字列の演算に優れているという特徴を持っていました。また、単に翻訳機として利用するだけでなく、一般の科学技術計算にも利用できるような汎用的な機能も持っていました。

現存するのは、システムの心臓部とも言える磁気ドラム記憶装置、トランジスタで構成された制御回路の一部、入出力に用いられた紙テープ等です。現在、九州大学工学部百周年記念展示室『CENTENNIAL GALLERY』において公開されています。

参考：国立科学博物館重要科学技術史資料の URL：<http://sts.kahaku.go.jp/material/>



KT-1の心臓部：磁気ドラム装置



KT-1の頭脳：制御回路

【お問い合わせ】

大学院システム情報科学研究所 教授 内田 誠一 (うちだ せいいち)

電話 : 092-802-3586

Mail : uchida@ait.kyushu-u.ac.jp

(不在の場合)

大学院システム情報科学研究所 助教 FENG YAOKAI (フォン ヤオカイ)

電話 : 092-802-3574

Mail : fengyk@ait.kyushu-u.ac.jp

情報知能工学部門事務室

電話 : 092-802-3601